

船 塚 橋

個別施設計画

## 個別施設計画参考様式(案)

## 1. 施設概要

施設名称	事業実施期間(供用開始年度)	管理者	路線名(架橋河川名等)	造成事業	施設の場所
船塚橋	平成元年	豊後高田市	農道下野部川原線 (県道豊後高田国東線)	県道改良事業	豊後高田市美和
適用基準(道路橋示方書)の年度	設計荷重	緊急輸送道路指定の有無	特記事項(※現況規制の有無)		
昭和53年1月	不明	有(県道)			
施設規模	橋長(支間長)	全幅員(うち歩道)			
	17.0	5.2			
	上部工形式	使用鋼材	塗装の有無	支承形式	落橋防止装置の有無
	PCプレテンション方式T桁橋	PC鋼材	無	ゴム支承(タイプB)	無
	橋台工型式	基礎形式	橋脚工型式	海岸からの距離(km)	
	逆T式擁壁	直接基礎	無	3.0	
	道路付属物、占用物件				

## 2. 施設の状態

調査内容	【R2. 2. 7. の橋梁点検調査】 損傷状況の把握、対策区分の判定及び健全性の診断
調査結果	【R2. 2. 7. の橋梁点検調査結果】健全度Ⅱ 主要部材には、構造上の支障となる変状は確認されなかった。 A1橋台取付舗装に段差が確認された。地覆(親柱を含む)にひびわれが確認された。 いずれも予防保全の観点では、状況に応じて補修を行うことが望ましい。
劣化原因等の推定	架設後31年が経過しており、劣化原因は経年劣化と思われる。

## 3. 長寿命化対策概要

点検計画等を含む管理方針	直ちに利用者被害に至る程度の変状は確認されなかったが、A1橋台側の路面の段差は通行に支障が出るため、早い段階で補修を行うこととする。 次回の点検は令和6年度とする。
対策の予定時期(案)	変状は軽微であるため、要経過観察とし、今後の点検時に施設の機能が損なわれると判断される場合に対策を実施する。
対策費用(概算見込)	

	H31・R1	R2	R3	R4	R5
対策費用(長寿命化)(百万円)					
対策費用(更新)(百万円)					
点検計画	定期点検				
	R6	R7	R8	R9	R10
定期点検					

橋梁点検のチェック表(案)

(実施年月日:令和2年2月 7日 (金))

項目		チェック	留意事項
①	上部構造 主桁	<input checked="" type="checkbox"/>	剥離、鉄筋露出、漏水、遊離石灰、滞水
②	横桁	<input checked="" type="checkbox"/>	
③	床版	<input checked="" type="checkbox"/>	漏水、遊離石灰
④	舗装	<input checked="" type="checkbox"/>	路面の凹凸、舗装の異常、その他
⑤	高欄	<input checked="" type="checkbox"/>	防食機能劣化・腐食
⑥	下部構造 橋脚	—	
⑦	橋台	<input checked="" type="checkbox"/>	漏水、滞水
⑧	基礎	<input checked="" type="checkbox"/>	
⑨	支承部	<input checked="" type="checkbox"/>	
⑩	法面(護岸等)	—	
⑪	その他	<input checked="" type="checkbox"/>	ひびわれ、漏水、遊離石灰

点検調書 橋梁変状・異常箇所写真位置図(案)

(参考資料)

橋梁名	路線名	所在地	緊急輸送道路	代替路の有無
船塚橋 フナヅカバス	農道下野部川原線	大分県豊後高田市美和	あり(路下:緊急輸送道路)	なし
管理者名	調書作成年月日(初回)	路下条件	占用物件(名称)	
豊後高田市耕地林業課	令和2年2月 7日	県道豊後高田国東線		

部材単位の診断

点検者 (株)キョウワ  
点検時に記録

点検責任者 畝本 清人

部材名	変状の種類・状況等	備考(写真番号、位置等が分かる)
上部構造	主桁	剥離、鉄筋露出
	横桁	
	床版	
下部構造	漏水、滞水	
支承部		
その他	地覆(親柱を含む)にひびわれ、路面の段差	①、②

橋梁の変状・異常箇所写真位置図

※ 橋梁のポンチ絵を描いて、クラックや不具合箇所をスケッチする。

※ 点検時期によってスケッチの色を変えるなど工夫する。

① 親柱のひびわれ



② 舗装の段差

